

2024 劇評

合併号



五十字劇評NO.68 TRASHMASTERS
『ガラクタ』

私の市民劇場賞 『帰還不能点』
劇団チョコレートケーキ

私の劇評 「演劇で新しい発見」「今年は社会派作品だ！」
「模擬内閣リハーサル 大喜利の刻」



小川眞儀さん 突然の訃報

2024年12月に「五十字劇評」の中心であった小川眞儀さんがご逝去されました。劇評を2013年10月からあしかけ12年続けてきました。きっかけは10月例会『殿様と私』運営担当の集まりから。市民劇場創立者の1人である故大原克之さんの熱い話から、「昔はガリ版刷りで感想文集発行していた、ただ観るだけでなく感想を気軽に発表出来る場を作らないかと、元若者3人と挿絵担当者で動きだしました。感想会がはじまったのも、この頃です。

声かけし、運営担当サークル・感想会参加者に寄稿を依頼し、12月例会に「言わせて！今日の芝居」劇評集第1号が出来ました。書くことが、ただ観るだけでなく、他の人の感想を読み、感動を共有し、芝居を楽しんでくれる。より市民劇場が自分事となり発展する力になる事を信じて続けています。

小川さんはいつも静かに「五十字劇評」の編集に取り組み、多くの人に書いてもらうために、前向きに頑張っていました。2017年には一年を振り返る「私の劇評」もやらないかと発案され、始まりました。2024年12月例会に67号『篠田三郎・榎山文枝 文学の夕べ』劇評集を発行し、そして、「2024年私の劇評」旭川市民劇場は演劇を継続して鑑賞することを目的として54年！「今年の一押し」でも、「総括」でも、そして「夢」希望でも。旭川市民劇場に関わる思いをお寄せください。投稿お待ちしていますー」の投稿募集が小川さんの最後の原稿になってしまいました。いつも笑顔で「芝居を観ることでつながることが、たった一つの合意点」を大事にして編集を続けていました。次の芝居を楽しみにして続いていくことを願っていました。

突然の訃報は信じがたく残念な気持ちでいっぱいです。今まで本当にお世話になり、有り難うございました。ご冥福をお祈りいたします。合掌

編集スタッフ 元若者

五十字劇評NO.68

言わせて！ 今日の芝居

ガラクタ

「青少年例会参加者より」

▼大きな声を出すときに迫力があってよかったです。暗転時の物を動かす音がぜんぜんなくて驚きました。お酒を入れたり、食器を片づける動作がていねいでよかったです。とても楽しかったです。

▼本当におもしろかったです!! 声を荒げるときのかすれ方がとてもリアルで、劇にひきこまれました。舞台装置がすごい汎用性があって暗転が短く、まったく飽きませんでした。とてもすごかったです!!

▼まず舞台から疑っていて、どのようになっているのだろうかと関心が湧きました。そして始まってから最後まででの登場人物の感情の変化が、

お酒によりさらに大きく表現されていてすばらしいと思った。今回の観劇を通して、より演劇への関心が深まりました。

▼すごくすごく面白かったです!! 音響はドアが開いたときに、外の音が大きくなるのがすごかったし、照明は照らし方がきれいがかべの反射がきれいでした、一番びっくりしたのは氷の音です。音響なのか実際に鳴っていたのかはわからないけどリアルさが増してよかったです、すごかったです。これからもがんばってください。

▼とても濃いお芝居でした。お酒を使った表現など、高校演劇では学がことのできないオトナな見せ方に感動しました。結論をたくすタイプのお話の相方のかけ合いのバランス等とても勉強になりました。本日はありがとうございました。

▼すごく感情の出る芝居を観ました。全員の考えに共感できる辛いので、結末が全く予想できなかったのですが、丸く終わってほっとしました。怒りの感情が本当にリアルすぎて良い意味で怖かったです。ありがとうございました。

【60代】

▼反対派と賛成派のどろどろバトルかと思ったが、意外とスマートに展開した感。地層のような背景が一番の見どころだった。(男性)

▼登場人物の生き方を見て「自分もタフに生きなくちゃ」と思った。国のエネルギー政策は一体どう進んでいくのか。(女性)

▼地球温暖化、再生可能エネルギー、原発の是非、核のゴミ問題。いろんなことを考えさせられた。そもそも日本の電力事情はどうなっているのか。横一線、ベスト選択に苦慮していた。年度の最後に、この演劇に出会えたのは僥倖だった。(男性)

▼あまりにも日常的な大問題。否、自分の事となっていない事、多し。少ない演者での見せ場。自分事として再考。(女性)

▼日頃から日本政府のエネルギー政策、特に原子力発電に依存する体質に疑問を持っていたこと、処分方法が決まらないまま稼働を続けていることに不安と不満を持っていただけに、このことを取り上げて舞台化してくれ、問題提起してくれたことに感謝しています。観る前は中途半端

な内容かも…と期待していなかったのですが、真つ正面から深く切り込んで反対派の意見や賛成派の意見を丁寧に、丹念に調べ上げたであろうことが想像される素晴らしい内容で感動しました。あとから銅鑼を読むと社会問題をテーマにしている由、これからも期待しています。(女性)



【70代】

▼現実でしたネー！とんでもなく悲しい、大変なことが多いです。自分事として、向き合えますか。心配な私があります。(女性)

▼NUMOの勉強会で始まり一瞬にして会員が舞台上に集中した感があった。私もその一人である。内容的には賛成派・反対派と想像がついたが親子・夫婦・友達までもがもめだすことになる。これが現実なのか？町長は誰かが引き受けなければと言っているが言い訳に過ぎないと思う。

なせか最後まで緊張感を持って観ていたせいか疲れた。原子力発電所を造るときに出たごみの処理を先になぜ考えなかったのか、いまだ不思議だ。(女性)

▼今回の芝居「やったー」手をたたきたいくらいの内容でした。私は原発を動かすことに反対です。原発が稼働すれば必ず「核のごみ」が出ます。日本ではそのごみをどうするかきちんと決まっていないので、今日の芝居のようになるのです。全国の人達にこの芝居を見てもらいたいと思います。特に北海道はごみ捨て場として狙われています。電気はク

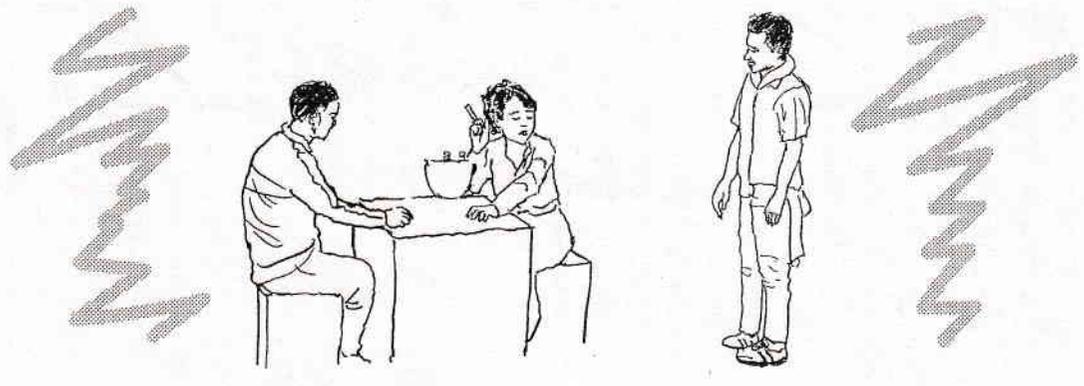
リーンエネルギーだけで間に合います。なんでガラクタという題なのかな？(性別不明)

▼私だけかもしれない。何故題が「ガラクタ」になったのか…。兎も角考えさせられる課題と再度認識させられる福島。「ガラクタ」とは「核」の塵の事なのか。(女性)

▼直球をエイツと投げるような力強さ。実際の町村民よりも迫力があるのでは。放射性廃棄物など絶対にダメ。(女性)

【記載なし】

▼長い、うるさい、くどい、浅い。北海道で起きていることだからあとは北海道の人が考えてと脚本家は言った。「核のゴミ問題」では無く、「核のゴミの話」として趣味で書かれた脚本にがっかり。芝居の質の低さにうんざり。役者たちにゲンナリ。今までの報道をなぞって現地での取材をしていないことがよくわかる。この芝居のよつなもののものが「ガラクタ」。



編集スタッフから

青少年例会で観劇された高校生の皆さんは、演劇部だったのでしょいか、役者たちの台詞の応酬や舞台装置等を感じ、心に残る舞台であったとの感想でした。一方、会員の皆さんは、核のゴミに対する日頃の問題意識の差で評価が大きく分かれました。賛成派と反対派のバトルが単なる茶番劇のようだと思ってしまう。私個人は、幅広い人に問題意識を持っていただくには仕方ない表現選択だったのでは思っています。ただ、この芝居をきっかけに原発に関する本を読むことができたのは私にとって収穫でした。